

定例記者会見
参考資料

夢COCOプロジェクト 活動報告書

2024年12月

ソフトタスク部会 事務局 シティプロモーション戦略課

ハードタスク部会 事務局 スポーツ推進課

目次

- 1 夢COCOプロジェクトの概要
- 2 ソフトタスク部会活動報告
 - (1)金メダル報告会
 - (2)市制施行70周年記念動画への出演
 - (3)小山公園ニュースポーツ広場改修前イベント
 - (4)市民栄誉表彰の新設と市制施行70周年記念式典への出席
 - (5)オリンピックレガシーの取組について
- 3 ハードタスク部会活動報告
 - (1)検討経過
 - (2)本市のスケートボードの現状
 - (3)検討内容及び結果
 - (4)まとめ
- 4 おわりに

1 夢COCOプロジェクトの概要

夢COCOプロジェクトとは？

パリ2024オリンピックにおいて、本市在住のスケートボード選手である吉沢恋選手が金メダルを獲得されたことに伴い、その功績を市民に広く周知し、レガシーとして後世まで伝えるとともに、後進のアスリート育成に資する取組を推進するため発足したプロジェクトです。

【プロジェクトの設置期間】 令和6年8月1日から12月27日

庁内横断的に若手職員を中心にチームを組織し部会を設置

夢COCOプロジェクトチーム

チームリーダー 石井副市長
サブリーダー 大川副市長

ソフトタスク部会

所掌事項

- 吉沢選手の功績を称える制度等の創設及び市民等周知
- パリ2024オリンピック競技大会を契機とするシビックプライドの醸成
- 同様の功績をあげた選手をゆかりとする自治体との連携

ハードタスク部会

所掌事項

- 屋内型スケートボード施設等の整備に向けた検討に関する事
- クラウドファンディング導入及び基金新設等の検討に関する事

2 ソフトタスク部会活動報告

(1)金メダル報告会

パリ2024オリンピック競技大会で金メダルを獲得した吉沢選手から、市民やファンに対して金メダル獲得を直接報告いただき、その功績を市民とともに称え、お祝いすることを目的に実施した。

○日時

令和6年8月17日(土)

午前11時から

○会場

相模原市民会館 ホール

○主な内容

- ・吉沢選手から報告
- ・トークセッション 等

○来場者数

1,089名

○取材メディア

17社22名



2 ソフトタスク部会活動報告

(2)市制施行70周年記念動画への出演

本市の市制施行70周年を記念して制作した動画に出演していただいた。
出演に当たっては、吉沢選手が小学生の頃小山公園ニュースポーツ広場で練習している様子を記録した動画を所属先から提供いただくなど、全面協力いただいた。



2 ソフトタスク部会活動報告

(3)小山公園ニュースポーツ広場改修前イベント「Thank You OYAMA NEW」

小山公園ニュースポーツ広場の改修に伴う一時クローズに当たり、お別れイベントを実施した。イベント内で、レガシーの一環としてセクション(障害物)の一部に寄せ書きを実施。今後**市役所1階ロビーで展示**するほか、リニューアル後の**ニュースポーツ広場での展示**を検討中。

○日時

令和6年10月20日(日)午後1時から

○出席者

吉沢恋選手、藤澤虹々可選手、
本村市長、大崎副議長 ほか

○主な内容

吉沢選手等によるトークショー
ラストメッセージ(セクションへの寄せ書き)

○来場者数

200名

○取材メディア

5社7名



2 ソフトタスク部会活動報告

(4) 市民栄誉表彰の新設と市制施行70周年記念式典への出席

令和6年9月定例会議において市表彰条例を改正し「市民栄誉表彰」を新設した。**吉沢恋選手**及び**萩原直輝選手**(パリ2024パラリンピックゴールボール男子金メダリスト)が初の受賞者となった。また、市民栄誉表彰の表彰式を市制施行70周年記念式典の中で実施した。

○新設した市民栄誉表彰に係る条文(表彰条例)

(市民栄誉表彰)

第6条 市民栄誉表彰は、市民又は本市に関係ある個人で、次の各号のいずれかに該当し、かつ、本市の魅力及び知名度の向上に大きく寄与し、その功績が極めて顕著であると認められるものに対して行う。

- (1)世界的な競技会等において最も優秀な成績を収めた者
- (2)世界の文化の向上及び発展に極めて大きな貢献をした者

○市制施行70周年記念式典において表彰式を開催

・日時

令和6年11月20日(水)

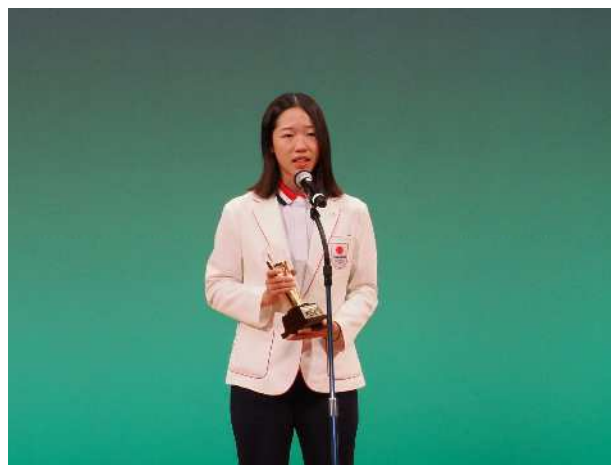
午後4時30分から

・会場

相模原市民会館 ホール

・来場者数

1,200名



2 ソフトタスク部会活動報告

(5) オリンピックレガシーの取組について

○江東区と連携した取組

パリ2024オリンピックスケートボード男子ストリート金メダリストの堀米雄斗選手の出身地である江東区との連携事業として、**本市と江東区の共催によるスケートボード大会**の開催について、令和7年度及び8年度に実施する方向で検討を進めている。
本市の小山公園ニュースポーツ広場が改修工事中のため、令和7年度は**江東区**での開催、令和8年度は本市での開催を想定している。



今後はスポーツ推進課が引き継ぎ調整を進めていく。

3 ハードタスク部会活動報告

(1) 検討経過

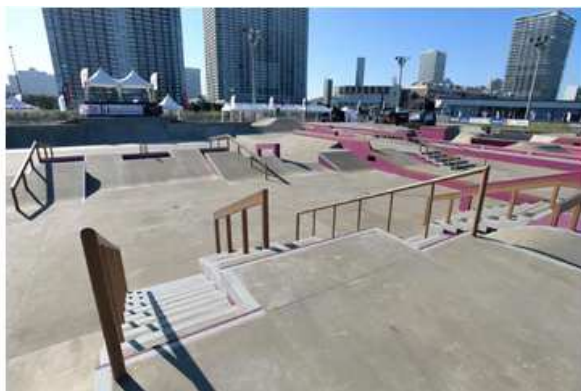
- ①屋内型スケートボード施設について吉沢恋選手から施設のイメージやセクションの仕様など意見を伺う
- ②スケートボードの関係者と本市のスケートボードの現状について対話を実施
- ③参考となる近隣スケートボード場の視察やヒアリングを実施



施設設置の候補地や事業スキームなど実現性について検討

【視察先】

有明アーバンスポーツパーク(江東区)



夢の島スケートボードパーク(江東区)



The Park Samukawa(寒川町)



3 ハードタスク部会活動報告

(2)本市のスケートボードの現状

※スケートボード関係者との対話より

○市内にスケートボードの練習できる環境が少なく、近隣の立川や寒川のスケートボードパークで練習する人もいと聞いている。また、駅前や道路上でスケートボードをやっている人も多い。

○車や通行人の少ない夜間に活動することが多く、近隣からの騒音苦情や、歩行者とのトラブルから警察に通報されることも少なからずある。

○小山ニュースポーツ広場がオープンして以来、路上で練習する人が少なくなった印象はある。

○スケートボードは道や空き地で自由にやるもの、というスタイルがあるが日本ではなかなか受け入れられない面が多い。専用のスケートボード場があればより良いが、スケートボーダーの裾野を広げる上では、気軽に活動できる場所が多くあることが求められている。

○小山公園ニュースポーツ広場開設当時(平成19年)は、他に同様の施設はほとんどなく、ストリートスポーツの先進的な取組であり全国的に注目された。一方で、スケートボード競技自体の認知度が低く、地元のスケートボーダーや他県から移住してきたスケートボーダーでいちからコミュニティを作り、オリンピックなどを輩出するまでの功績を作り上げてきた。

○小山公園ニュースポーツ広場に歴史があるので、仲間のつながりも強く、ローカルルールが構築されており「小山スタイル」として定着している。

○小山公園ニュースポーツ広場が本年11月から改修工事に入り、1年半程度の期間全面閉鎖することとなる。このため、練習場所が更に少なくなり、路上等での活動が増えることが予想されるため、トラブルの増加や、スケートボード競技者への社会的なイメージの悪化が懸念される。

○スケートボードに関心が高まっている時期であり、オリンピック機運が途絶えないよう小山公園ニュースポーツ広場の代替があるとよい。麻溝公園にも行くと思うが、やはり、小山公園ニュースポーツ広場に通っていた子どもたちが引き続き練習できるよう、徒歩や自転車で行けるような場所があるとよい。

3 ハードタスク部会活動報告

(3) 検討内容及び結果について

公共施設の一般的な概念にとらわれず

「スケートボードを練習するために必要な場所や環境」

について、自由な発想のもと、意見を出し合い、

次の視点から検討しました。

- ① 既存施設等の活用
- ② 民間企業等への働きかけ
- ③ 小山公園ニュースポーツ広場の屋根
- ④ 小山公園ニュースポーツ広場改修工事への対応
- ⑤ クラウドファンディング等について

3 ハードタスク部会活動報告

①既存施設等の活用

多額の費用や時間をかけて設置するのではなく、スピード感をもってなるべく費用をかけずに整備できる場所として、コンクリートやアスファルト敷の既存公共施設等の活用を中心に検討。

候補地: 未利用の体育館、立体駐車場、公園、国道高架下、道路用地 など

結果

立地条件(仕様、騒音等)や関係法令等への対応が必要であり、いずれも改修工事等に想定以上の時間と費用がかかる等の課題から直ちに実現することは困難。

②民間企業等への働きかけ

トップアスリート向けの屋内練習場施設の仕様や施設設置の実現性、また、本市のスケートボード競技に対する機運の醸成や継続に向けた取組等について、市内企業やスケートボード関係者と対話を実施。

結果

- ・運営方法や収支等の課題があるが引き続き、スポーツ推進課が民間企業等との対話を継続。
- ・トップアスリート向けセクションは、難易度が非常に高度であり、誰もが利用できるものではなく公共としての位置づけは難しい。
- ・民間事業者等の活力を活用し、施設整備の実現に向け市が連携することは、本市のアスリート支援に繋がる。

③小山公園ニュースポーツ広場の屋根

スケートボードは路面が濡れると危険で滑ることができない。新たな建物の設置は難しいが屋根があれば小雨時や猛暑対策には有効ではないか。

結果

用途地域の制限等により現状では設置困難。

3 ハードタスク部会活動報告

④小山公園ニュースポーツ広場改修工事への対応

代替となるスケートボード場の設置に向け、屋内に限らず候補地を選定し検討



結果

同等の面積、設備を備えた施設の設置は困難であるが、小山公園ニュースポーツ広場から比較的近い場所で300㎡程度でスペースを確保する方向で検討中。

⑤クラウドファンディング等について

財源確保策として寄付や基金の新設等を検討

結果

施設整備の方向性が定まらないため詳細検討には至っていないが、今後、公共施設として整備する場合は「クラウドファンディング型ふるさと納税」の枠組みに適している。

3 ハードタスク部会活動報告

(4)まとめ

- ①屋内型スケートボードの整備については、立地条件や関係法令への対応など、さまざまな課題があることを確認
- ②ヒアリングの中でスケートボードの裾野を広げ、気軽にスケートボードができる場所がほしいなど様々な「生の声」として意見を収集

スケートボードの現状や取りまく課題を整理

屋内型スケートボード場を直ちに実現することは困難

一方で幅広いスケートボードの練習環境が望まれている

今後は……

市内の公園や広場などで「スケートボードが共存できるスペース」を確保する取組を検討する

身近なスポーツにするためには、スケートボードに対する住民等の理解と受け入れが不可欠であり、活動者と住民が歩み寄れるようなルールづくりやマナー向上などの取組を進める

遊びの一つとしてスケートボードが市内の子どもたちに浸透することで、競技人口・年齢の裾野が広がり、次世代アスリート誕生に資する取組を検討する

市内に「誰もが」「気軽に」「安全に」スケートボードができる環境の整備について取り組む

民間企業等との対話を継続し、本市のアスリート支援の取組を進める

→今後はスポーツ推進課が引き継ぎ調整を進めていく

4 おわりに

小山公園ニュースポーツ広場で育った吉沢恋選手のパリ2024オリンピック金メダル獲得の偉業により、本市は全国的に「**スケートボードの聖地**」として認知されました。

プロジェクトは終了しますが、これまでの検討結果を踏まえ、今後、一層「**相模原市＝スケートボード**」のイメージが定着し、本市でスケートボード文化が広がるような取組を進めてまいります。

高価な一つの屋内スケートボード場を作るより、たくさんのリーズナブルな屋外スケートボード場があるのも魅力的

「I LOVE 小山」
小山公園ニュースポーツ広場が育んだ文化をこの先も継承

相模原市からの金メダリスト誕生に1000人を超える市民等が祝福。これからも市全体で応援

スケートボードが身近に感じるまちづくりを目指し、若者の移住、定住効果を期待



吉沢選手の活躍は相模原市を全国に発信してくれました。改めて感謝するとともにこれからも応援していきます！